

An illustration featuring two anime-style characters in a mechanical, industrial setting. The character on the left has short black hair and is wearing a black jacket with yellow buttons over a white shirt and a patterned bow tie. The character on the right has short grey hair and is wearing a similar black jacket with yellow buttons over a white shirt and a patterned bow tie. They are both looking towards the viewer. The background includes large mechanical components, a large gear-like structure, and a red, rocky foreground. The title 'THE EMPTY WORLD' is written in large, stylized orange letters across the middle of the image.

THE EMPTY WORLD

例えばの話
なんだけどさ

はい？

君と僕が同じ学校に
通っていたら
どうだっただろうね？

お友達にでもなって
一緒に学園生活を
送ったりするのかなあ

っん…

うーん
いまいち想像
出来ないですけど



でもきっと
楽しいと
思いますよ



ははっ
君は毎日楽しそう
だもんねえっ!

ま



そうだねえ

君と一緒になら…

僕の高校生活は
もっと違ったものに
なっていたかも
しれないね

足立さん…



——— それが…



前の世界の「日常」の中で

最後に足立さんとのやり取りとなった



THE EMPTY WORLD

次の世界は何かおかしい



その春の八十稲羽は平和そのものだった



——そう

事件も起きない

仲間との絆もない

そんな世界

くるっ





最近
忙しいかな

あーほら
バイト入れ
すぎちゃってさ

この前言ってた先輩に
格好いいところ
見せるために
張り切ってるのか？

言うなよー！



……まあ
そんなとこ

へらっ



んじや
時間だし
帰るわ

おう！暇だったら
今度バイト先
遊びに来てくれよな！

ああ

また
明日な





「平和で何も起こらない世界」...それは



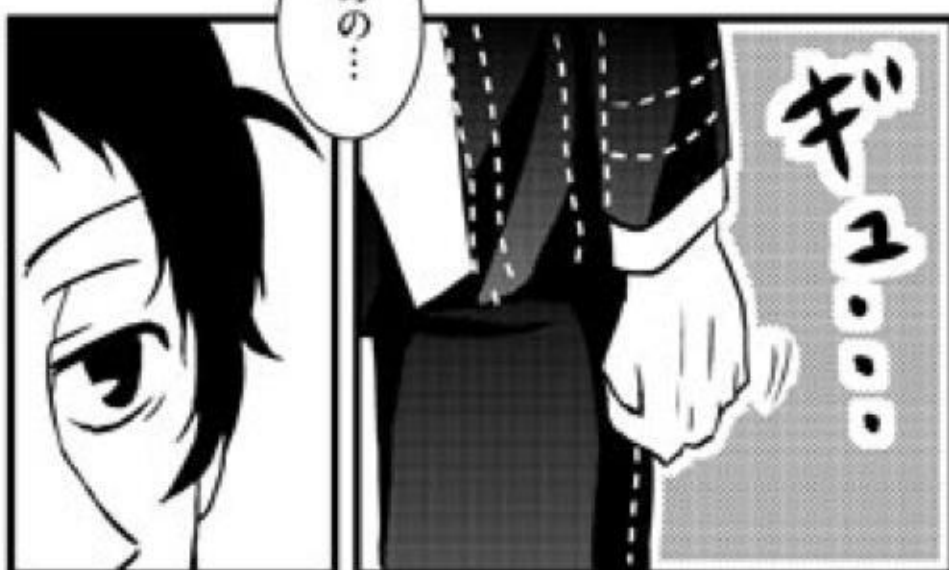
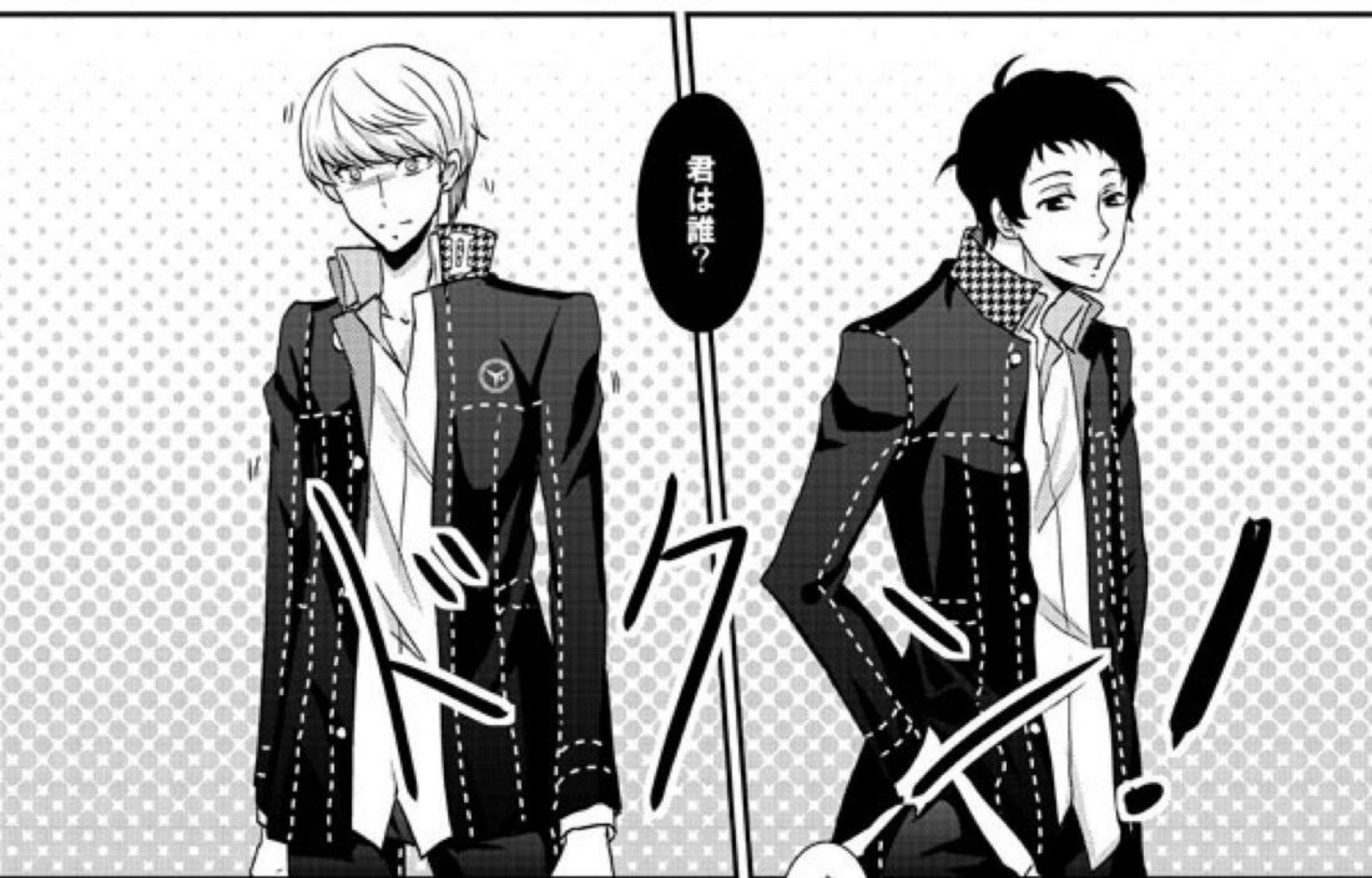
「あの人がいない世界だった







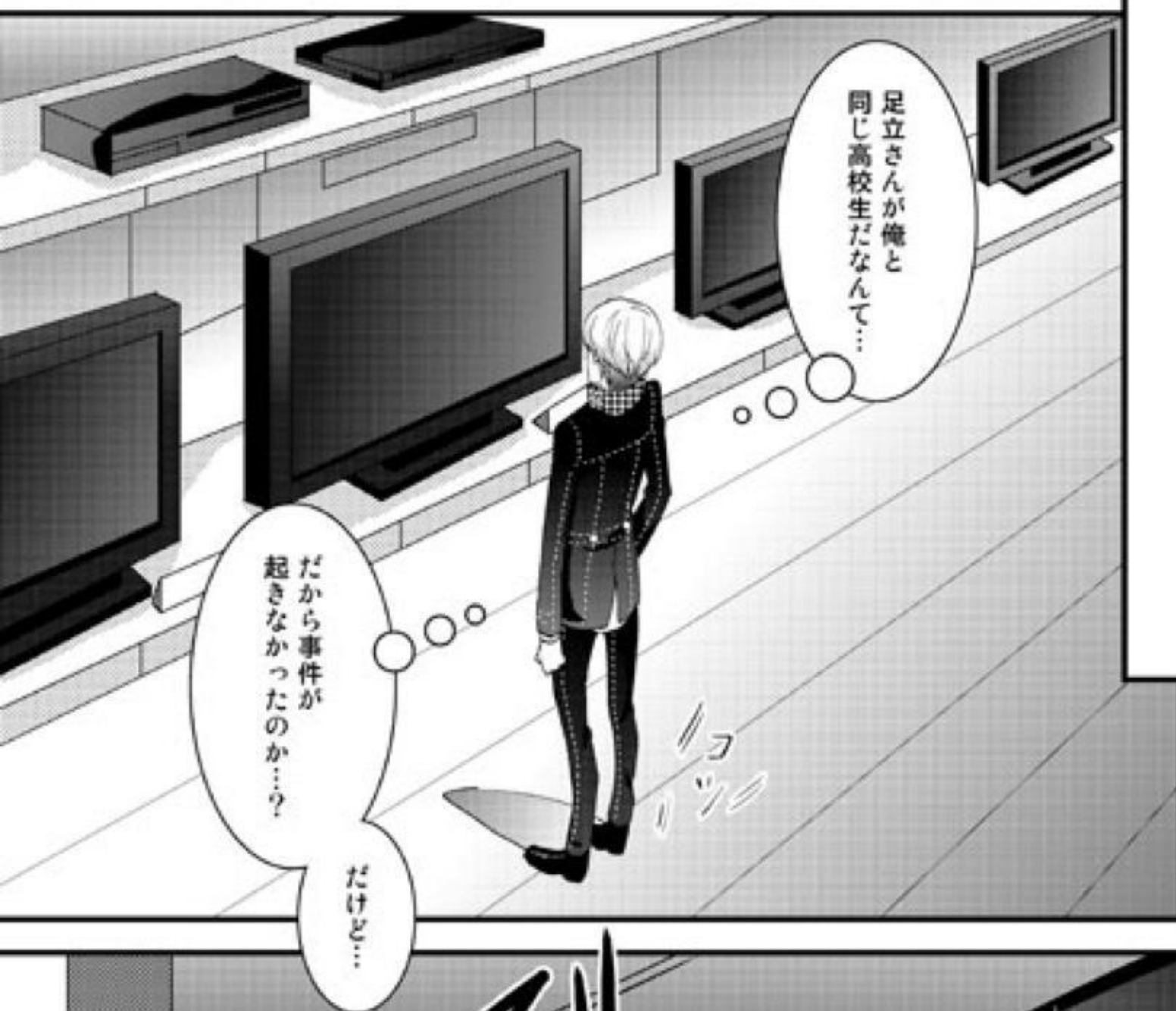








一体どうなってるんだ…？





よかった…
出口は置きっぱなし
みたいだな

ほ、

でもクマは…?
この世界には
いないのか?



霧もそんなに
濃くないな…

マヨナカテレビの
噂も聞かないし
そのせいなのか?

へえ 僕以外に
この世界に来れる
人間がいるなんてね

え…

んー



どうして…
貴方が…!?

そりゃこっちの
台詞だよ

誰かと思ったら
2年の1番君じゃない

えーっと確か…
鳴上君…だっけ?



「ようこそっ
テレビの中の世界へ」
なんてね





此地に来てすぐだったよ
テレビの中に入れるって
気がついたのは

足立さん…
少し幼い…かな？
でもそんなに
変わらないかな

そしたらそのまま
テレビの中に
落っこちちゃってね

偶然テレビ売り場で
転んじやった
んだよねえ



そうだったん
ですか

高校生の頃から
ずっけ刑事
だったんだな…

あっ今僕のこと
ドジだと
思ったでしょ？

いえ
そんなことはっ

どうせ君も
似たような
もんでしょ！

はあ…まあ…



つい固有名詞をっ





(記憶はないみたいだけど自分の能力については知ってるのか？
俺も最初にベルソナを使ったときにそうだったように…)





それから瞬間に時間が過ぎた



同じ能力を持ってることもあってかすぐ仲良くなれたし



高校生の足立さんは大人の時よりも少し素直な気がした









どうして「違う」だなんて思ったのだろう？



—— どうして…







他の誰でもない俺自身が望んだ世界なのだから

何度となく繰り返した1年に
俺は疲れ果てていた

何度繰り返したところで
あの人はいつも犯罪者だった



伸ばした手は…



一度も掴んで貰えないまま…



だから願った

事件もなにも起こらない世界を
あの人が犯人じゃない世界を

そして皮肉にも思い知る

あの事件があったから
仲間が出来たし

様々な絆を築くことが
出来たのだ



そろそろ
クリスマスだねえ

悠君は
クリスマスと一緒に
過ごす女の子
とかいるの？

そんな...
いないですよ

まだまだあ
クールで格好いいって
3年の女子の間でも
人気あるらしいよ君

もう誰かに
誘われたりして
るんじゃないの？

本当にいないですよ
足立さんこそ
どうなんです？





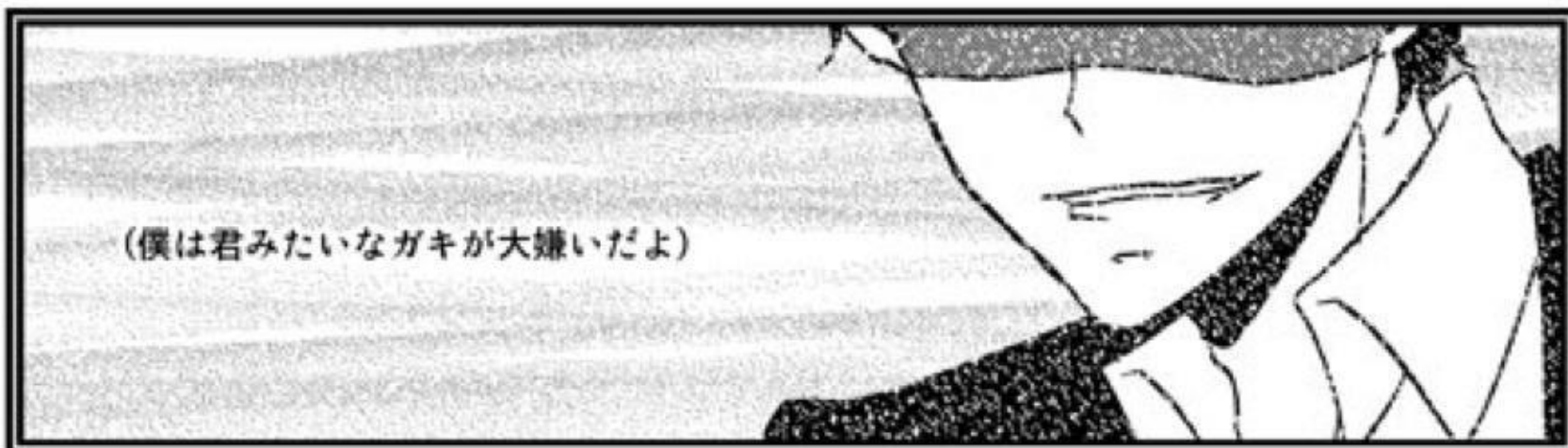
うわーまさか
告られちゃったよ

まあいつか
じゃあ
付き合っちゃおっか？

え？



僕も君の事
結構好きだと
思うよ？



(僕は君みたいなガキが大嫌いだよ)



何故かそんなに
悪い気はしない
んだよね

悠君だから
かな

普通なら
嫌がるところだと
思うんだけど

え…



(ずっと殺してやりたいと思ってた)

カチャッ

だからさ…



嘘…だ…

だって
こんな…





ごめんなさい ごめんなさい ごめんなさい



俺はきっと自分よがりな望みでこの人の世界を狂わせた
例えそれが幸せなものだったとしても



...今更





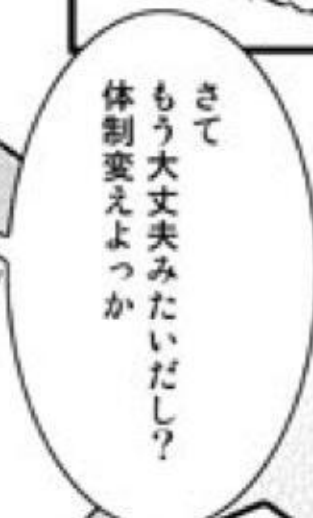


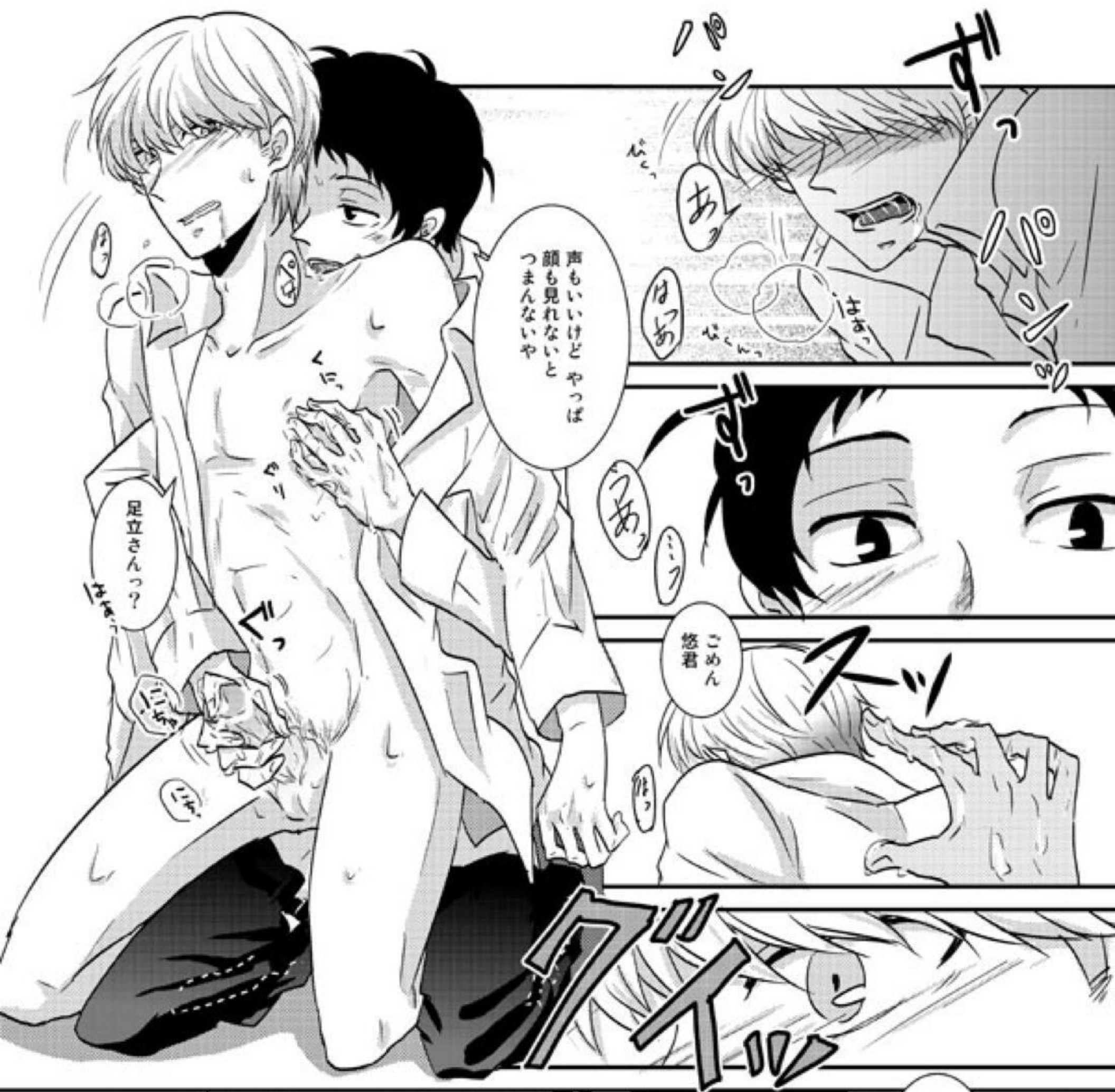


でもそれ以上にずるいのは俺の方だ



※最初だしちゃんと
慣らしといた方が
いいでしょ









その後はなんとなく
気まずい気持ちを抱えながら
足立さんにつき合った

思い出したように
罪悪感に苛まれたが

それ以上にあの人と
過ごせる時間のほうが
大事だった

000

そう…例え
まるで偽者ような
足立さんであっても

そして瞬く間に時が流れ…

八十稲羽駅

やあ悠君
見送り来て
くれたんだ？

はい
俺も来週此処を
出ますけど

そう言えば
君1年だけの
滞在だったっけ

君のおかげで
この1年間
楽しかったよ

俺も足立さんと
会えて
楽しかったです





全部...
覚えてたよ

まさか...

さて...
そろそろ
時間みたいだ



またね
悠君



後悔するくらいなら
もう願うんじゃないよ

俺は...



気が付かなかった



かる？
今流行の曲よりも
ちよっと前の曲の
方が好きでさ

偽者なんかじゃなかったのに



好きだと言ってくれたのに...

足立さん足立さん足立さん足立さん足立さん足立さん



この世界は俺と足立さんの望んだ世界だった





あーあ……
最後まで言うつもり
なかったんだけどなあ



カッ
タッ

カッ
タッ



どうしても
意地悪しちゃう
んだよね



「でもきっと
楽しいと
思いますよ」

あんなにシロツクな
顔するとは
思わなかったなあ
嘘ばかりだったのは
僕のほうなのに

うん…でも…
悔しいけど

君の言った
通りだった

楽しかった
のだけは本当



……

アッ

…また
この町で

END

ここからは足立視点同じ一年間の話。

本編でちゃんと終わってはいるので蛇足のようです。

タイトルは「THE EMPTY WORLD」＝「何もない世界」を
可愛くちょっとおちよくった言い方に直して
「ないないの世界」にしました。

R18

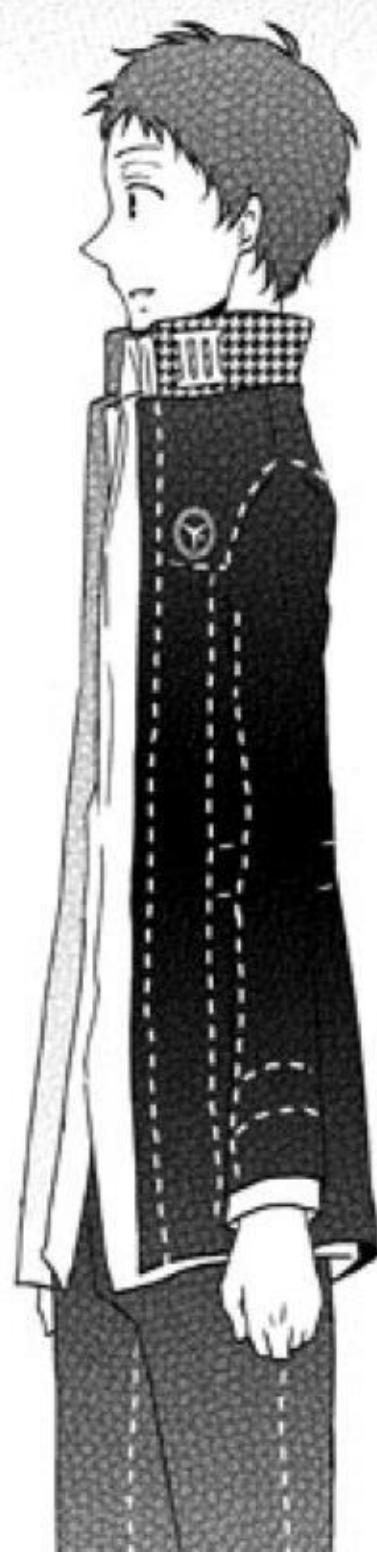
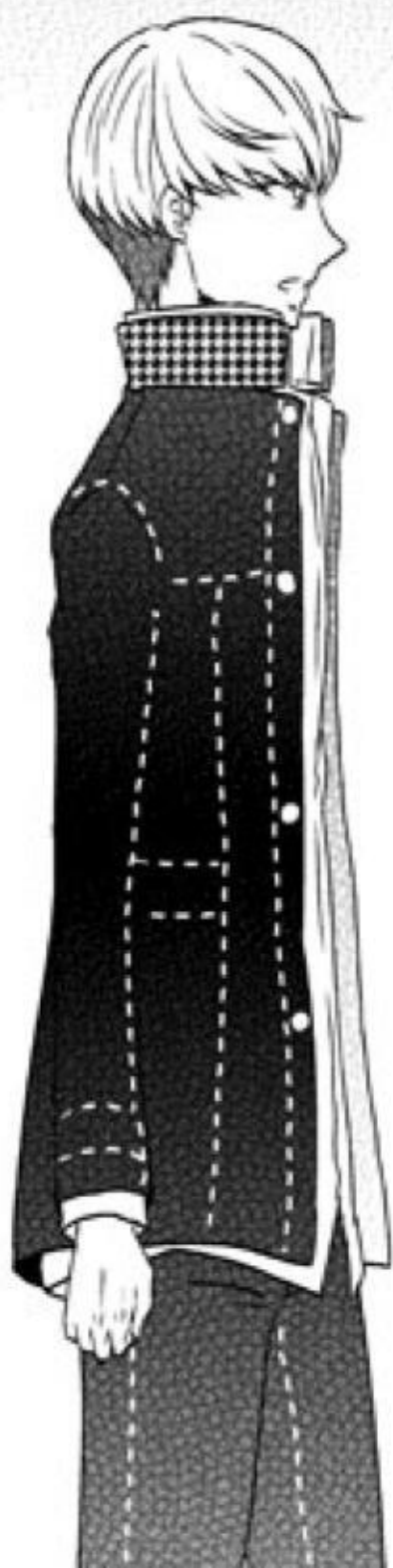
世界

THE EMPTY WORLD THE EMPTY WORLD THE EMPTY WORLD

WORLD THE EMPTY WORLD THE EMPTY WORLD THE E

A stylized illustration of a person in a suit standing on a staircase. A large pink banner with the text "THE EMPTY WORLD" in white capital letters is draped across the scene. The background features blue and white polka-dot patterns. The person is wearing a dark suit jacket with a circular logo on the lapel and a light-colored shirt. The overall aesthetic is modern and graphic.

俺は
足立さんが
好きです



思わず声を出して笑い出しそうになった
だって君って奴は本当に懲りない

ないないの世界



うん 君が本気なんだってのは知ってるさ



でもこの告白にはもう1つの意図があるんだろう？



じゃあ
付き合っちゃおっか？

え？

君は疑ってるんだ 僕を試しているんだ



僕も君の事

^{きょうふ}断られる恐怖よりも ^{ほんとう}君は真実が知りたいんだろ？



結構好きだ
と思うよ？

だけど残念 僕の答えが「Yes」だって「No」だって
君が結論を導き出さなきゃいけない

真実なんてものは虚像でしかなく
簡単に書き換えることが出来ちゃうんだから



君にとっての真実が必ずしも僕の真実とは限らないんだよ



だからこの世界ではこう囁くでしょう！





そう こんなふざけた世界は茶番でしかない

さて君の真実の僕は誰かな？

『もしも戻れるとしたら
何時に戻りたい?』



ドラマの中の台詞だったり それこそ日常の会話だったり
誰もが一度は聞いたことのある質問だと思う



例えば僕が同じ質問を
投げられたとしよう



答えは
「No」だ

No!



戻りたいなんて言う奴は
よっぽど輝かしい過去を持ってる奴か
やり直せば自分は成功するとか思ってる
おめでたい奴に違いない



お兄ちゃん
大丈夫?



なのにどうしてこうなった!?



しかもなんでよりにもよって
高校3年生なんだよ!!

ぎゃっ

また勉強漬けの生活をして
受験とかしなきゃいけないのか僕は!



想像中



「なぜ」も「どうして」もこの世界では
考えるだけ無駄なのだから...



この世界でも
つるんでるんだなあ

学年違うからそんなに顔を合わせることもないし



この学校の偏差値は
昔僕が通ってた学校よりは低かったみたいだから



学業もなんとかかなりそうだしね



そう 思ってたんだけど…

足立さん？

疲れてます？
大丈夫ですか？

あーやっぱり
分かったやう？

昨日は遅くまで
勉強しててね

受験生
ですもんね

3学期ともなれば相次ぐテストや特別授業とかで
受験生は忙しくなる 僕も例外ではない



元々表情の分かりにくい子だけど
これだけ長く一緒に居れば表情の変化くらいは用意に読み取れる

きつとまた僕への疑心と罪悪感でごちやまぜになってるんだらう？



——そう

あの時みたいに





足立さんって
そういうの言われるの
面倒くさいタイプですよ

ははっ名前が
よくわかってるじゃない

これだから
君のこと
好きだよ

はっ

んっ

ちゅ

足立さん？

ゲンキなことに

記憶は残っていると言っても身体は高校生なので
てっとり早く発散する相手が欲しくてOKしたってのもあるかも

いや別に27歳の僕が
今ほどヤル気がなかったのは
年のせいじゃないから！

仕事で忙しかっただ
からだから！
疲れてただけだから！

にっ
ねえ悠君
ヤろっか

足立さんっ
…此処学校っ

ブー

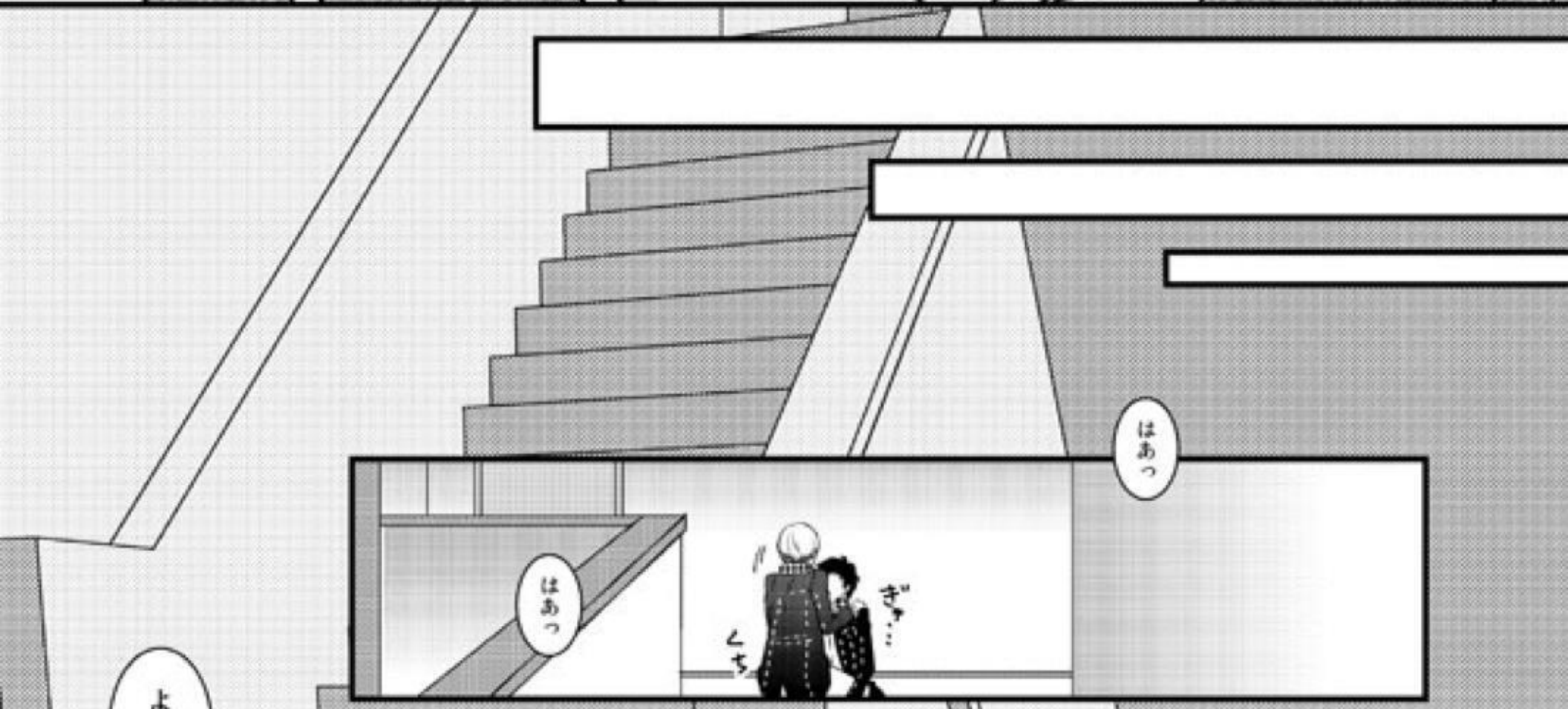
いいじゃない
もう下校時刻
過ぎてるし

こんな寒い中
屋上に行こうなんて
物好きはいないさ

つめたっ

ほらっ僕って
寒がりだからさ

はむ。





そりゃ春から今まで退屈しなかったし…



っていうか楽しかったし…



そうさ 知っていたさ…

この世界は僕が望んだ世界だ

END



あんなに上手く騙せてたのに
どうして種明かししたんだって？



そんなの知らないよ



そうだな…
強いて言えば



